

吉里吉里忌 2015

2010年4月9日に永眠した作家・劇作家の井上ひさしを偲ぶ文学忌。名称は言葉遊びが好きだった井上に相応しいよう、代表作『吉里吉里人』から「吉里吉里」の字を当て、逆から読んでも「きりきりき」と回文になっています。2015年からは、多くのファンとともに井上を語り継ぐ催しとして、ふるさと山形県川西町で開催します。

— 井上ひさしと川西町 —

井上ひさし(1934～2010)は、山形県東置賜郡小松町(現・川西町)に生まれ、中学2年までを過ごす。人気作家となった30数年後、故郷の青年達の依頼に応え母校小松小学校にて講演した。このことをきっかけに、蔵書を川西町に寄贈することを決め、1987年「遼筆堂文庫」が開館。1994年には演劇ホールと遼筆堂文庫、町立図書館からなる「川西町フレンドリープラザ」がオープンする。井上逝去後の2010年11月には遼筆堂文庫内に「井上ひさし展示室」が開設。その後も寄贈は続き、現在、遼筆堂文庫の蔵書と資料は22万点を超える。また、小説「下駄の上の卵」や「あくる朝の蟬」、数々のエッセイなど、故郷川西町を舞台にした作品も多い。



期日 **4月19日(日) 13時～17時**

会場 **川西町フレンドリープラザ・遼筆堂文庫**

■参加費 1,000円(18歳以下無料) ■定員 700名

プログラム **司会／古屋和雄**

(文化学園大学教授・元NHKエグゼクティブアナウンサー)



第一部 鼎談 「笑いにひそむ真実—井上演劇の魅力」



永井愛

ながいあい／劇作家・演出家。二兎社主宰。代表作に『歌わせたい男たち』(朝日舞台芸術賞グランプリ・読売演劇大賞最優秀作品)等。2002年から4年間日本劇作家協会(初代会長井上ひさし)の第3代会長を務める。



平田オリザ

ひらたおりざ／1962年東京生まれ。劇作家・演出家・青年団主宰。こまばアゴラ劇場支配人。代表作に『東京ノート』(第39回岸田國士戯曲賞)等。井上ひさしとの共著に『話し言葉の日本語』(新潮社)がある。



扇田昭彦

せんただあきひこ／1940年東京生まれ。朝日新聞学芸部編集委員、静岡文化芸術大学教授を経て、現在、演劇評論家。著書に『井上ひさしの劇世界』(AICT演劇評論賞、国書刊行会)等がある。

第二部 記念講演 浅田次郎(作家)「井上ひさしと私(仮)」

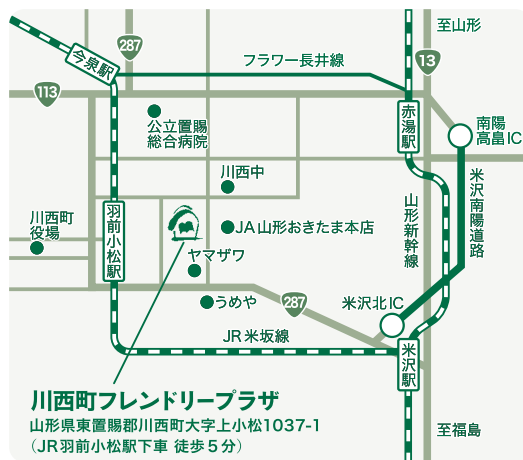


浅田次郎●あさだじろう／1951年東京生まれ。作家・日本ペンクラブ会長。1995年『地下鉄(メトロ)に乗って』で第16回吉川英治文学新人賞、1997年『鉄道員(ぼっぼや)』で第117回直木賞、2000年『壬生義士伝』で第13回柴田錬三郎賞、2006年『お腹召しませ』で第1回中央公論文芸賞、第10回司馬遼太郎賞、2008年『中原の虹』で第42回吉川英治文学賞、2010年『終わらざる夏』で第64回毎日出版文化賞を受賞。多彩な作風で多くの読者を魅了し続けている。近著は双葉社刊『神坐す山物語』。

アクセス



- 東京から鉄道(山形新幹線・米坂線)利用で羽前小松駅まで最速約2時間30分
- 東北自動車道福島飯坂ICから70分



川西町フレンドリープラザ
山形県東置賜郡川西町大字上小松1037-1
(JR羽前小松駅下車 徒歩5分)

第28回 遼筆堂文庫・生活者大学校 「井上ひさしと憲法」 期日：4月18日(土) 13時～ 会場：川西町フレンドリープラザ
講師：山下惣一(農業・作家) 樋口陽一(東北大学名誉教授)

※東京からの往復チケット・宿泊・参加料を含むお得なプランもご案内しています。お気軽にお問い合わせください。

■お問い合わせ・お申し込み

川西町フレンドリープラザ TEL.0238-46-3311 (月曜を除く9時～18時)
FAX.0238-46-3313 / E-mail:friendlyplaza@gmail.com

※19日午前には旧小松町ガイドウォークや担当編集者が明かす井上ひさし創作秘話、井上作詞の「川西第一中学校校歌をうたおう」などを予定。詳しくはウェブサイト <http://www.inouehisashijp> へ。